

「JPLCS 関西支部 大阪・関西万博見学会／懇親会のご報告」

技術士包装物流会 関西支部 支部長 真野仁孝

1. 懇親会実施状況

日時：6月18日(水) 18:00～20:00

場所：「鯛めし、銀まる」大阪市中心区難波 1-5-2

参加者：9名

本年の大阪・関西万博開催に当たり、技術士としての知見を共に高めるとともに、東京本部と関西支部の親睦を深めることを趣旨として、万博見学会／懇親会の開催を関西支部より起案した。見学会に先立ち、前夜祭として懇親会を行った。本部から青木会長始め3名の方を迎え、既に当日より万博に参加された方からの情報提供等にて話が大いに盛り上がった。懇親会終了後は、有志にて「大阪名所探索」として、G社OBのM氏ご案内の下、道頓堀のG社看板前にて記念撮影をした。

2. 大阪・関西万博見学会実施状況

日時：6月19日(木) 9:30～

参加者：8名（会長奥様含める）

(1) 入場前後

当日（6月19日）の会場周辺は朝から気温が25℃を超え、日中の最高気温は33℃となった。大阪metro「夢洲」駅から徒歩で東ゲート前に8時10分頃に着き、約50分間、開場まで待つ。入場し待ち合わせ場所であるゲート東ゲート広場 案内所前の「Snow-Deer」モニュメント前に着いたのは9時10分であった。待合せ時間の9時半に参加者6名にてモニュメント前で記念写真撮影の後、早速、見学を開始した。以降、見学の一部のみを報告する。（写真1参照）



写真1

(2) 万博パビリオン報告①「ノモの家」と技術展示

今回の万博ではネットから、5候補まで事前予約できる仕組みになっているが、結局、1箇所／日の予約しか取れなかった。その唯一のパビリオンが、パナソニックグループパビリオン「ノモの国」であった。本パビリオンのコンセプトは「解き放て。心と体と自分と世界。」で、具体的には、一人一個用意されている”結晶”を持ち、好きな石にかざすと石が光り、別8の部屋では結晶を置くことで映像がスタートし進行していく。つまり、各自の結晶を通して行動を分析し、最後に診断結果をカード（QRコード）で見る事が出来た。子供向けながら大人も楽しめる体験型パビリオンであった。

「ノモの家」を出ると、五つのユニークな技術展示を行う“大地エリア”があった。具体的には、バクテリアの力で植物の成長を刺激する「Novitek」を使い、会場で植物を育てるという展示である。「Novitek」とは光合成の過程を活性化させ、植物の成長を刺激する技術で、シアノバクテリアという微生物を「葉緑体のように」変えることで生み出された、生物由来の植物成長刺激剤である。(写真2参照)



写真2

(3) 万博パビリオン報告②「フューチャーライフヴィレッジ」

本パビリオンは西ゲートの更に西側の「フューチャーライフゾーン」に位置する。そのためか、見学者は比較的少なかったが、中身は見応えがあり、個人的にはお勧めのパビリオンであった。具体的には、「これからの日本の暮らし(まち)」を改めて考え実現するプロジェクト(Co-Design Challenge プログラム)であり、「マイボトル洗浄機」や「パイオトイレ」等の実例を挙げながら、未来の食や文化、ヘルスケアの分野に関する技術を紹介している。(写真3)

また、「宇宙航空研究開発機構(JAXA)」常設展示にて見る事が出来る「月に立つ。その先へ、」は興味深く、実現可能な近未来を身近に感じた。



写真3

(4) 万博パビリオン報告③「スペイン館」

本パビリオンは比較的に入館しやすかった。「黒潮、二つの国をつなぐ一つの海の中へ」として、海をテーマとしていた。具体的には、海底にある歴史的遺産を保護する技術や、海の資源を燃料や医薬品に活用する持続可能な技術が展示され、個人的には興味深いものであった。特に、スペインはバイオ燃料の生産能力が大きいと言われているため、今後の種々の技術に対するリーダーシップに期待したい。(写真4)



写真 4

3. 見学会総評

今回の万博の目玉の一つである、「大屋根」をバックに「セキュリティロボット」が普通に通行（稼働）していた。（写真5）このロボットに限らず、数年後には、今回の万博で目にした装置や機械が我々の身近なところで稼働している場面を見ることになることを想像した。

今回は残念ながら、国宝級の美術品を展示している「館」などの人気のパビリオンには入れなかったものの、大阪の「夢洲」にて各国の人々と触れ合うことにより、世界の広さと期待できる未来を感じることが出来た。未だ、行かれてない方に一度足を運ばれることをお勧めする。

以上



写真 5